

校長室の窓から

令和3年2月11日（祝）

今年度、本校には横尾卓巳先生（数学）と植松彩乃先生（国語）というお二人の新規採用教職員が在籍しています。先日、お二人がこの1年間の初任者研修の成果をそれぞれの教科の研究授業という形で発表されましたので、私の個人的な感想を含めてご紹介します。

1月22日（金）5限目、横尾先生が1年1組の教室（3階）で「数学A」の研究授業を実施しました。このクラスは1年1組と1年2組（ともに全県募集枠入学生）を同時2展開したうちの1グループで（15名）、比較的数学に対する興味関心の高い生徒たちが集まっているグループで、上級学校への進学を希望している生徒も含まれています。



この時間に生徒たちが学習したのは「三角形の成立条件」です。みなさんは「三角形が書けない場合」と言われて、どのような状況なのか思い浮かびますか？生徒たちはこの大きな「問い」を投げかけられ、前の時間に学習した「三角形の書き方」などを思い出しながら、まず自分で考え、次にグループで話し合い、自分の考えを伝えたり他者の考えを聞いたりして、それぞれのグループの意見をタブレットにまとめ、最後に電子黒板を活用しクラス全体で共有するという学習活動を見せてくれました。

授業の学習活動の流れを書き上げると簡単に思われる方もおられるかもしれませんが、実際に本校の生徒たちが三角形という図形に対して興味関心を持つような意識付けや生徒たちの思考を深めるような発問、あるいは自分の考えを自分の言葉で他者に伝える際の適切な助言など、生徒たち一人ひとりの特性や学習到達度に応じた様々な工夫や細やかな配慮が見られました。横尾先生の1年間の研修の成果がよく現れた生徒中心の素晴らしい授業（学習活動）だったと思います。来年度以降、一層研鑽を積み、さらに素晴らしい数学科教師に成長してくれることを期待しています。



余談？ですが、横尾先生は佐賀北高校バスケットボール部の卒業生で高校時代に全国大会にも出場、大学でもプレーヤーとして活躍していたそうです。現在は、本校インドアスポーツ部の顧問として女子バスケットボールの指導を熱心に行ってくれています。

2月9日（火）6限目、植松先生が1年4組の教室（3階）で「漢文」の研究授業を実施

しました。題材は、『呂史春秋』より「船に刻みて剣を求む」です。本校では、生徒たちに漢文学習の基礎基本である書き下し文や句法に慣れさせ、定着させることに力を注いでいます。私が高校生の頃、40年以上前に学習したと思われるような学習内容でしたので、生徒たちとほとんど同じ新鮮な気持ちで授業に参加させてもらうことができました。

事前に指導案を見せていただいて驚いたのは、漢文の時間なのに、最初に「漢字」ではなく「画像」が提示されることです。中国で「船に刻みて剣を求む」にちなんだ切手が発行されているとのことで、この話の展開に従った4枚の切手が電子黒板とワークシートで提示されます。生徒たちは、まずこの4枚の「絵」だけを見て、自由に発想力を働かせて絵に合わせて自分のオリジナル・ストーリーを考え、クラスで共有します。最終的には故事成語「船に刻みて剣を求む」の話の展開を理解しながら、書き手の意図に触れ、作品に現れたものの見方や考え方を知ることを目指す授業でした。

外部からの電話対応をしている間に、授業が始まってしまい、一番楽しみにしていた導入部分の学習活動を見ることができませんでした。授業を参観された他の先生方の話を聞くと、生徒たちが自由な発想でストーリー展開を考えている様子、自分たちが考えたストーリーを共有し合っている時の生徒たち楽しそうな表情が特に強く印象に残ったとのことです。生徒たちの生き生きとした表情を見逃したのが本当に残念でした。

その後の「返り点のルールに従い、読む順番に番号をつける活動」から見せてもらいました。最初から生徒たちは夢中でワークシートに取り組んでいましたが、難しい箇所にはさしかかると2人、3人と集まって教え合ったり、答えを言い合ったりするグループ学習が自然発生的に始まり、生徒たちの元気な声が教室のあちらこちらに響いていました。生徒たちが授業をとおして身につけた学習意欲の表れだったと感じました。

次の活動は「自分たちがつけた番号に従って書き下し文にする活動」でした。その活動で注意する点について、まず生徒たちから引き出し、次に電子黒板に丁寧に表示するなど全員がいつでも確認できるよう細やかな配慮がされていた点も大変良かったと思いました。この活動では、時間がかかりそうな生徒には机間巡視で目配り、気配り、声かけがしっかりなされていて、授業の終わりには生徒たち全員の表情に「できた！」という達成感が感じられました。

次の時間に、生徒たちが「船に刻みて剣を求む」の元来のストーリー展開を知った時の驚く顔が楽しみです。もしかすると待ちきれない生徒が次の授業の前に予習に取り組んでくれるかもしれませんね。それを期待させてくれるような楽しい授業でした。

横尾先生、植松先生、お二人は、この1年間、時に悩み、時に迷いながらも、周囲の先生たちに暖かく支えられ、大きく成長してくれました。来年度も教科指導や学級経営、また部活動指導の面で大いに自己研鑽を積み、日々生徒たちとともにさらに成長してくれるものと確信しています。くれぐれも健康には留意して、生徒たちのために、自分自身のために、そして地域社会のために、頑張ってください。期待しています。

佐賀県立巖木高等学校
校長 坂本 康晴